

ほっかいどうの社会保障

2016年10月7日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

地域医療は崩壊寸前 住み続けられる医療提供体制を 地域の要求を反映した北海道医療構想に 素案パブコメに応募を

「出産できない」「救急医療が受けられない」「入院ベッドがなくなった」など、地域医療は深刻になり、医療提供体制の充実が求められています。こうした中、北海道は、2025年の医療提供体制を示す地域医療構想（素案）を公表し、10月14日までパブリックコメントを募集しています。

地域医療を守るために、地域の深刻な医療の実態や切実な要望など積極的に意見提出しましょう。（パブコメのURLは下記の通り）

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/iryokeikaku/kousou_publiccomment.htm



1万床削減する計画 不安広がる

必要病床数は73,190床で、2013年の病床数と比べると、約1万床削減される内容で、医療関係者の間に衝撃が走るとともに、「必要な医療が受けられなくなるのではないか」など道民の不安が広がっています。一方、在宅医療等88,725人うち訪問診療42,766人の確保を強調。

	2025年必要病床 数案 A	2013年病床数 B	A-B
北海道	73,190	83,556	▲10,366

医療機能別では、回復期が大幅に不足しているため、急性期等からの転換が必要としています。そのため、医療機関相互の役割と連携の推進、医療と介護との連携、医療介護従事者の確保と養成を課題にあげています。

北海道民医連が素案に対する見解 5つの視点示す

- (1) 病床削減＝地域医療切り捨ての構想は許さない
- (2) 必要な医療を確保する医療構想とすべき
 - ・急性期病床の削減は救急医療の崩壊に
 - ・慢性期病床の削減は入院患者の追い出しに
- (3) 実情を無視した機能の分化と連携
- (4) 道民的議論抜きで地域医療構想づくりの見直しを
- (5) 住民本位、住み続けられる地域をめざす医療構想を

各地域医療調整会議でも 意見続出

北海道は、21ある二次医療圏ごとの地域医療構想調整会議での検討を踏まえて作成しました。各会議では、病床数の削減の影響、今でも不十分な介護や在宅医療、従事者の確保をどうすすめるかなど不安の声も出されました。

【病床削減への懸念】「各自治体病院のベッド数削減が危惧される」「将来に向けた地域医療を守ることができなくなるのではないかと心配」「地域の病院は、医療技術者が不足しているベッドを制限している。自宅に帰ることのできない患者も多いが、今後ベッドを確保していくことができるのか」「医療費削減のためのベッド削減であっては困る」

【介護との関係】「介護等が整わない状態でベッドを減らすことは患者の行き場がなくなる」

【進め方について】「推計は可能であるが、最終結論までは住民、地域との対話が必要」

【その他】「人口だけでなく、面積の要素も考慮しないと正確なことができないのではないかと」

道内5か所の説明会でも

パブコメ前に、道内5カ所で医療構想の説明会が行なわれました。道の担当者は、「新聞報道では病床削減が報道されているが、そうではない」と強調しました。しかし、稚内での説明会に参加者は「宗谷地域は150床ほど減る計画です。すでに、医師や看護師不足のため許可病床の半分程度しか利用できていない地域が多いです。地域医療を支える公立病院の財政支援も必要」と指摘します。

道議会では 与党も懸念する質問

道議会でも、地域医療について各会派が取り上げました。

自民：「地域医療は、医師や看護師がいない、地元でお産ができないなど、様々な課題を抱えております。…多くの地域で現状を下回る事となるため、それらの地域からは、近い将来の病床削減や医療機関の廃止を招き、身近に医療を受けることができなくなるのではないかと、不安の声も聞かれる…」

11月26日 国の責任で、医療と介護の充実を求める北海道集会

とき 14時～16時

ところ ニューオータニイン札幌（中央区北2西1）